

手探りの10年

和田 悟（情報コミュニケーション学部）

情報科学センターの運営との関わりは、「情報科学センター専任教員」として明治大学政治経済学部採用された1997年からであるから、今年が10年目ということになる。「もうそんなに経つのか」というのが真っ先に浮かんだ感想である。そして、この間に私自身、何をしてきたのだろうと、これまでやった仕事を思い出そうとしても、なかなか思い浮かばない。眼前に次々と現れる課題にホッとする間もなく追い立てられ、なんだか慌ただしかったという想いだけ。それも気分だけで、他の方々に比べると全然忙しく働いていたわけではないのだから情けない。

情報科学センター運営自体は、その最も大きな役割は学部間共通の情報科目の運営にあり、公式行事としては、情報科学センター運営委員会、同教育専門部会の活動があるが、これらは、その企画立案を担うスタッフ会、専任教員会といった日常的な教職員共同体の密なる会合に下支えされていた。そこに参画してきたとはいえ、自分自身が担当する科目をこなすので手いっぱい、他の専任教員におんぶにだっこで、横から口出ししていただけて、私自身がセンターの科目運営に何か役にたったんだろうかという思いも強い。

現在、この情報科学センターの担ってきた教育提供業務は、「教育の情報化推進本部」に移管され、「情報教育推進部」が担うことになった。現在、その推進部長を引き受けているのは、かつて十分に果たしてこなかった責任をここで果たしておこうとの思いからであった。が、それも、今では少々軽率であったかと後悔している。携わって10年になろうとしているのに、いざとなるとわからないことばかりだからである。

情報科学センターの業務には大学の情報化に関わることも含まれ、MIND 運用部会や総合情報システム協議会に加わることで大学のネットワークの運用にも携わってきた。1997年からの10年間というと、インターネットが急速に普及し一般化する時期と重なる。パソコンでのインターネット利用は容易になったし、ハードウェアも大幅に高速化・大容量化を遂げている。そうした面を考えると、大きな変化であったようにも思えるが、とりたてて、そう大きな変化でもなかったような気もする。思い返せば、着任早々にリバティタワーの情報環境整備に携わり、新しい情報環境における大学教育を考えるという仕事をに関わりえたからかもしれない。その頃にすでに、本学では、情報環境に関する将来構想が描かれており、PCP実験プロジェクトが始まっていた。情報科目以外の一般科目での情報環境利用を想定した試みが始められていたのである。そしてまたインターネットの普及、ブロードバンド化といった動向に先んじるようにOh-o! Meiji システムが構築・拡充されてきた。結局のところ旧知の構想が現実のものとなってきたということなのだろう。これまでを振り返って、何をしてきたかよく思い出せないというのも、現在なお、そのロードマップの途上に諸課題の渦中にいるからなのだろう。最後に、ラオスとの出会いも情報科学センターに関わっていたから生まれた縁だろう。1年4ヶ月もの間、JICA 長期派遣専門家として仕事をしながら、明治大学とラオスとの掛け橋とはなりえていないのは残念であるが、私個人としては、発展途上国の現状、国際協力・国際援助の現場を実際に見聞きする機会を得、日本とアジアの歴史を見直す切っ掛けが得られたことは貴重な財産となっている。